



新井さんの職場での健康観察の取り組み(健康状態は一例)

**小島** 命を生み出すときってというのは、身体にも、心にも大変な負担がかかる時期です。それを、周りにも理解してもらいたいし、男性の人にも共有してもらいたいです。子育て期間も、女性一人にお任せというのではなく、大変さも楽しさも一緒に共有して子育てすることで、親自身も成長できる時間ではないでしょうか。子どもその姿を見て、自分が親世代になった時、自然と一緒に子育てできると思います。そうあってもらいたいです。またシングルマザーさんは、より一層負担が大きく、経済的自立と子育てのワークライフバランスにご苦労されているのではないかと思います。一人で悩まず、周りに助けてと気軽に声を出せる社会になってもらいたいです。

**新井** 私はシングルなので全部一人で

やっていますが、子どもが体調が悪いときや、授業参観があるときは、だいたいお母さんが仕事を休んで来ているんですよ。でもフルで働いているのは女性も男性も同じで、それぞれの職場で任されている仕事があるから、どこか行ってもいいはず。介護もそう。なので、自分自身も声掛けができるようにしていきたいなと思ってます。もし男性職員の同僚が「子どもが熱出した」となったら、「じゃああなた早く帰らなさい。奥さん仕事してるんでしょ、お迎え行きなさい」と言えるといいなと思います。

**関根** どうですか、野口さん。

**野口** 家庭のある男性教職員は、家のことをよくやっているようで、私たちも「早く帰らなよ」と言いやすい。あと生理の話も、今は男女関係なく「生

理が」と話ができるので、子どもたちも平気になってきています。これなら大人になった時に、女性ならではの体調不良も、本人も周りの人たちもケアできるようにするし、女性の更年期も含めて、女性特有の辛さを、みんながフォローできるように頑張っていきますね。

◆ やりたいことを口に出来るように

**関根** 今日の大きなテーマ「女性活躍」の中で、どうしても「女性活躍」にながっていきにくいでしょうか。新井さんいかがでしょうか。

**新井** やりたいと思うことって、男性も女性もあると思いますが、まだ男性の方が「やりたい」って言いやすい環境だと思います。でも、人生1回しかない。私は、「キッチンカーをやってみたいけど、旦那が…」とか、「子どもはまだ小さくて…」といった話を聞くと、「目標をもって一歩踏み出してみるとか、旦那さんと話してみるとか、チャレンジしてもいいんじゃない」って伝えていきます。そういう雰囲気、男女関係なく、社会全体にもっと広がっていったらいいなと思ってます。

**野口** まずは「口に出せる」こと、できないなと思っていても、言ったこ

◆ 男女の意識にギャップあり?

**関根** 一つ聞いていいですか。私は50代ですが、子育てはまだ続くんですけど、50代の男性に、意識改革というか、こういう行動を一つとれば奥さん助かるんじゃないかとかありますか。

**小島** そうですね、男の人は手伝ってるつもりでも、意外にあまり役に立っていないこともあるので(笑)。

**一同** (笑)

**関根** なるほど(笑)。

**小島** たぶん男の人と女の人が思っていることにギャップがあるかもしれないですね。

**関根** では血洗いを手伝っていても…  
**小島** (笑) もちろん行動もすごく大事なんです。あとは、言葉かけ一つだけでも違うかな。夫婦だと恥ずかしくて、やってもらって当り前で、「ありがと」とか「ご苦労様」って言葉が出ないと思うんですけど、感謝の一言だけでも女の人の肩の荷が下りると思います。言葉も大切です。

**関根** 手伝ってるつもりだけじゃなくて、言葉かけも大切ですね。

◆ 女性のマネジメント力に賭けない

**関根** 最後に町長、お願いします。

**町長** 昔は生きること自体が大変だった

時から、自然と家族や地域による女性へのバックアップができていたのです

が、今は個人主義の時代なので、地域によるバックアップが難しくなっています。せめて職場は、個を支える集団、集団を支える個、っていう意識を今以上に持っていく必要があると思います。男女平等とは言いますが、肉体的生理的な違いはあるので、お互いに理解していく必要があると思います。

**関根** 「やりたい」ことに踏み出せるバックアップやサポートと、お互い様という感覚があると、望ましいということですね。

**町長** 女性にも本来持っているマネジメント力があるんです。一般的な組織では、男性がマネジメントをして女性が作業をしている組織が多いですが、女性のマネジメント力を生かしてほしい。そのためにはどうしても周囲のバックアップが必要なんです。女性が一人で「私はこう思います」というのが難しいので、その周りで「そうだそうだなー」って見えるバックアップ体制がないと、ファーストペンギンが出ていけないのになって感じがしています。ぜひ、女性のマネジメント力に賭けたいと思っていますよ。

**関根** 女性「にも」じゃなくて、女性「こそ」マネジメント力があるって

とかもありませんね。

**町長** そう、女性「こそ」!

**関根** そのためにはバックアップが必要ということですね。皆さま、「これは言っておきたかった」ということはあります。新井さんどうですか。

**新井** よくしゃべりました(笑)。

**関根** 野口さん、何かありますか。  
**野口** 学校は、ときがわ町の未来を支える宝を育てているわけなんですけど、その子どもたちが大人になったとき、「でっただよな。男女関係ないよな」という意識になって、家庭をつくっていく。そういう意味では、私はすごく重要なところにいるんだと、学校の重要任務を改めて感じました。子どもたちも頑

とでだれかが助けてくれると思いませんね。もう一つは、「お互い様」っていう言葉があるので、思い切って助けてもらうときは、助けてもらえらるついでに、甘える部分は甘えちゃっていいと思います。それをフォローできれば、その方が違う立場で今度は助ける側になることもあり。お互い様という感覚が、もっと社会全体に広がってほしい。女性活躍につながっていくと思えます。

**関根** 小島さんどうですか。

**小島** 何かやりたいという時に思い切ることができる勇気を女性が持つためには、女性自身の意識改革も必要だし、まわりの意識改革もなしとなかなかできないと思います。理解と助けが不可欠です。女性が躊躇することなく、やりたいと思うときに挑戦できる環境になった時、女性活躍の場が広がっていくと思えます。



張られて応援したいと思えます。今の生徒会長も女子生徒なので。

**関根** 小島さん、いかがですか。

**小島** 女性が安心して、のびやかに働ける社会であるとともに、誰もが自分らしく幸せを感じて日々過ごしていけるよう、お互いの多様性を認め合い、尊重できる社会であってほしいです。きっと女性の活躍の場が広がれば、多様な視点が加わり、よりよい未来に変わるのではと期待しています。議会としても女性のライフスタイルに合わせた支援ができるよう応援していきます。今日はありがとうございました。(了)

**関根** 皆様、本日はありがとうございました。

